

- 1 派遣期日 平成 27 年 11 月 18 日 (水)
- 2 研 修 先 学校名 つくば市立桜並木学園 並木小学校
所在地 茨城県つくば市並木 2 丁目 12 番地
<http://www.tsukuba.ed.jp/~namiki-e/>

3 研修内容

人権教育研究発表会

テーマ「互いの良さを認め合い、ともに成長する児童の育成」
～支え合い高め合う、協働的な学びを通して～

(1) 全体会

① 研究会概要説明

桜並木学園人権教育目標

自分の思いをのびのびと表現できる、思いやりの心をもったたくましい児童を育成する。

人権教育を通してめざす児童のすがた

- 自他のよさを認め合える子
- 困難をしなやかに乗り越えられる子
- 自分の思いを伝え、他者の思いを受け止める子

育てたい資質・能力

- ・自己肯定感
- ・回復力
- ・コミュニケーション能力

研究の実践

授業研究の内容

- 支え合い高め合う協働的な学び
- ・課題提示の工夫
 - ・話し合いの重視
 - ・ハートフルタイム
 - ・体験重視

一人一人を大切にしたい環境づくり

ハートフルランドの設置

- ・ハートフルがいっぱいー全校で他学年・他学級への感謝の気持ちやよいところを伝え合う場
- ・思いやりの本コーナーー人権に関する本の展示
- ・あなたならどうする？ー身近な生活場面を設置して、どんな言葉を書けるかを考えさせる場



ハートフル活動の取組

- ・学校スローガン・マスコットキャラクターの設定
「いい顔 いい声 いい心 やさしさ広げて 笑顔の並木小」
- ・あいさつ運動の実施ー異学年の児童が校門や昇降口に立って実施
- ・ハートフルお助け隊ー校内でお助け隊を募集し、活動する。
葉っぱ掃き隊・桜の花びら掃き隊 ポット苗植え隊
あちこちきれいにし隊

- ② 講評(茨城県県南教育事務所指導主事 岡田浩先生)・・・取組のよさについて
- <学習指導案より>・異学年の交流を実施している。
- ・体験活動を実施している。
 - ・支援の工夫がなされている。
 - ・人権教育の視点が指導案に盛り込まれている。
- <環境づくり>・活動を全校に広めている。

(2) 公開授業

① 1年生の実践 (つくばスタイル科)

○単元 みんななかよし(国際理解)

○人権教育の視点

- ・劇や話し合い活動を通して、外国の人の立場や思いを理解できるようにする。(知識的側面)
- ・自分との違いを認め合うことによって、仲良く助け合うことができるようにする。(価値的・態度的側面)



○「信号の意味が分からず赤でも横断する」「上履きを履き替えず、土足のまま教室に入る」「好きな食べ物を否定される」「遊びのルールが分からない」の4つの場面を想定し、困っている〇〇さんになんと言ったらよいかをグループに分かれて考えた。最後に発表し合って様々な場を共有する。

② 2年生・4年生の実践 (音楽)

○題材 アンサンブルを楽しもう

○人権教育の視点

- ・心を合わせてより良いアンサンブルをすることで、互いの思いを認め合う心情を育てる。(価値的・態度的側面)
- ・互いの意見の違いを認め受容する力や、自分の意見を素直に伝えようとするコミュニケーションの力を高める。(技能的側面)



○2年生と4年生の児童がグループを作り、4年生を中心に音の組み合わせや出し方を話し合いながら、アンサンブルの練習をし、最後にグループ同士が聞き合い互いの良さを味わう。

③ 並木小5年生・桜南小5年生・並木中8年生の実践 (集会活動)

○集会名 桜並木学園ハートフルフォーラム

○人権教育の視点

- ・いじめが人権の課題の一つであることに気づき、人権を尊重することの大切さを理解できるようにする。(知識的側面)
 - ・自分とともに他者も大切な存在であることに気づき、互いの気持ちに共感しながら支え合い高め合おうとする姿勢を育てる。(価値的・態度的側面)
- 「桜並木学園いじめゼロ作戦を立てよう」と議題でパネルディスカッションを行う。ICT機器を活用して各校からいじめゼロのための提案を行い、意見交換をしながら、実践が全校に広めるためにはどうしたらよいかを話し合い、中学生を中心に話し合い活動を実践していた。

4 感想

今回の研修で「自他のよさを認め合える人間関係を形成する指導方法」「人権教育の推進を図るための研修」の2点を研修の内容として考え、研究会に参加した。どの学級にも人権コーナーが設置され、学校の広いスペースを利用して「ハートフルランド」という名の下に学校全体の人権コーナーも設置されていた。人権に配慮した環境作りが行われていた。また、授業では全学級公開であったが、どの教科においても、人権的な配慮がなされ、心温まる場面をたくさん参観することができた。1年生なりに自分たちがどう外国の人々に接することができるかを考え、2年生と4年生の合同の音楽の授業では、異学年が同じ題材に取り組み、互いができることを自分の立場で考えて学習に取り組んでいた。また、小学5年生と中学3年生が同じテーマで互いを尊重しながら話し合い活動を行っていた。全教育の中で人権教育が実践できることを改めて感じさせられる参観となった。授業の中での小さな配慮が人権教育につながっている。自分のことから実践していきたい。